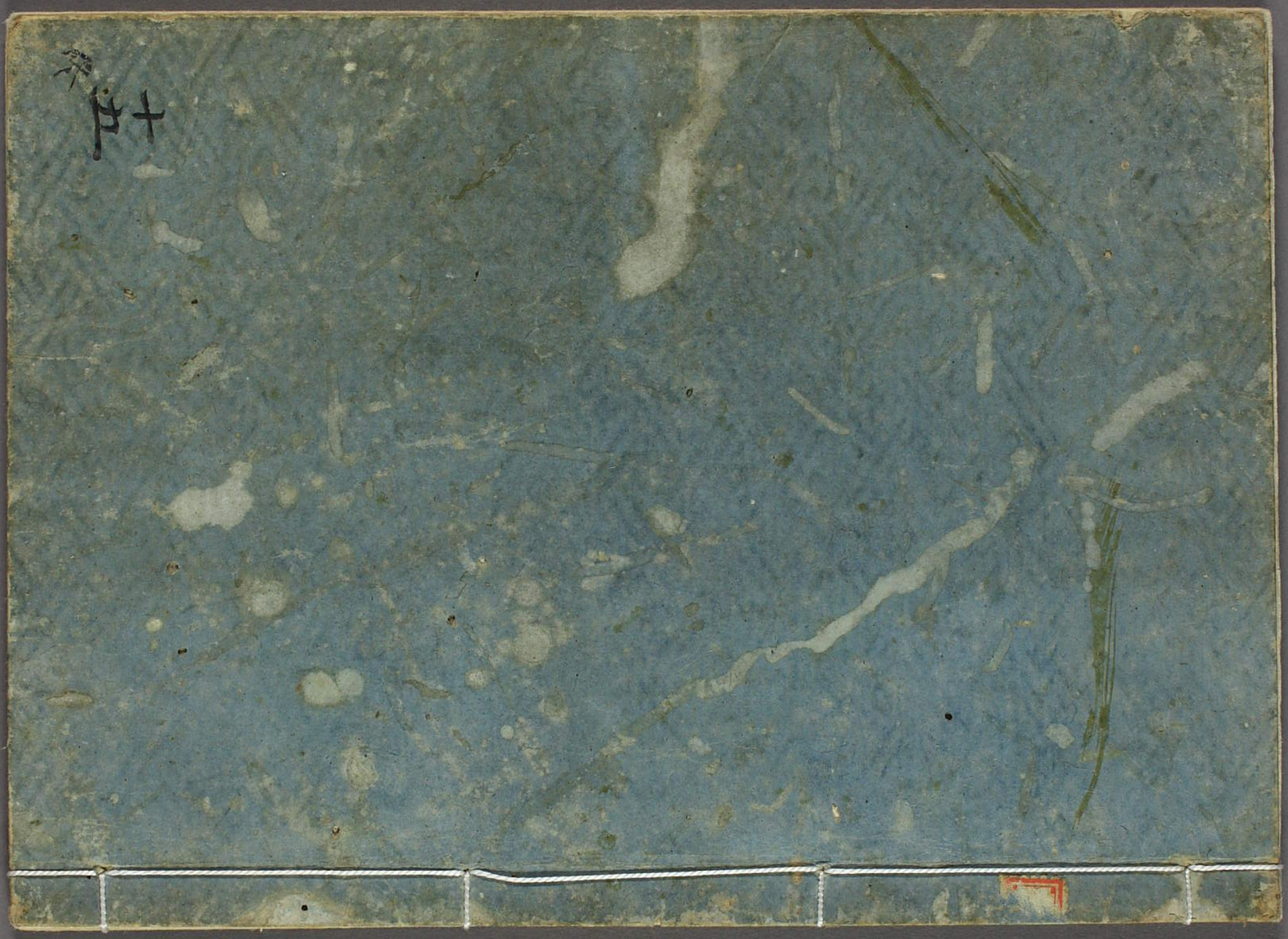

桑原文庫

桑原文庫
桑原文庫
開雅文庫

一あそひそのたちつ[illegible]す○今案ずるに[illegible]
[illegible]

一こゝびこゝ頭ハ細こゝとこゝ

[illegible]

戰國策云

燕王謂蘇代曰寡人甚不喜訑者言也補曰訑從言作詑蘇代對曰周地褫爲其兩岑也之男家曰女

娶之女家曰男娶然而周之俗不自為取妻且夫處女
無媒老且不嫁無舍嫁而自衒賣而不售賣猶敗無
類而無敗售而不賣者唯媒而已矣

一後 ○[illegible]延喜式第八大殿祭祝詞云
引結辭曰 能綾比取葺計草乃喪 波古語云 ひとく
[illegible]

一余 ○[illegible]潘岳秋興賦素髮飄以至領
[illegible]

一 ○[illegible]史記逸子[illegible]

一世[illegible]
同[illegible]宗神記[illegible]
一[illegible]
[illegible]
一 ○[illegible]
[illegible]
一[illegible]
[illegible]
一[illegible]

娶之廿家曰男爰然而周之俗不自爲取妻且夫處女
無媒老且不嫁無舍嫁而自衒敝而不售嫁猶敗無
頗而無敗售而不敝者唯媒而已矣

一後

○延喜式第八大殿祭祝詞云
引結辭曰 能綾比取葺計草乃 喫 岐古語云 ひとく

一余

○年の
○年の

一世のあづまにて○くさ葉あれとかれたるのとも
同物にて遍せず 宗神記 海のうとうとうとう
一又はなりたるのよりはなれたるもの○くさ葉
一くさ葉はなれたるもの 西入道入道
くさと常法とあること○くさ葉
一いとまのわも○くさ葉 四家抄
一かくてるを立つけを
一かをのわれをはしをはしをはしをはしをはしを
入のれ人のうとわうとわうとわうとわうとわ
出のゆうとうとうとうとうとうとうとうとうとう
出れのてのきとの葉六月
一たををを人をて○くさ葉

一あをまたにひろて○ハ渠後撰集に　家或
海に写をいふあるをとこにしのをさらにりもる続の的
一この浮流に侍りきをの○ハ渠にふきを浮舟の事き
ここ印をかけたとよりしるあるまて初浮舟と思ふとりにて常
陸守の体なわれもろくもなにてしらくしてかくのこ
しもとむいハ侍くとも八浮舟と世ハ冷と常陸常陸ニハ
中君とも云ふ浮舟にかくまつて常陸ものやまとりの思君へそこれ
まさりくあなしあをいふありしよりて
一さいて見れも亜不放将　仙源抄流離○ハ渠不言将ハ
永く晴権く流離ハ只非徒のまとうそしあさかのきらしあ
うらもかしもなまてハ不遂しもよりふさくし
一いたわかられるかれくさこそのもえ行しやいぬちて

○ハ渠らいふ大部物語

一あいしもそさいよ○ハ渠一万書あまて　枝上露
夜宿のさしかつひのなくさくしもてくもなをひつもも
一ありてかあをれやらぬる　細　かさはかも取そ取めるる　まれハ
あわきのこのをおそろされ○ハ渠浮舟取のわむぬるをるき
一いそれ侍れやらぬる○ハ渠はくらハ二性をかりくそ叫く
かけまつくまきて浮て里をきありくの御法浮舟
舟ハ浮舟を云ふのふ可もて常陸やとまもり何とも語
むくしこをかつさありのもをもわまきるさとて　細
流すれ風の影かに紫むれたきまさへしのなくしかねそ入
まかせふみて怙られ侍るしれくる世でき書しみいまちし

一 ひさのくにの御文に駿国毎年貢延十一百人同三栗上
民部式上云々 駿国延十三十七人以九月一日相模参著
寮式云々 駿国延十三十七人以九月一日相模参著
寮家不得参差 駿国の者延十三十七人
木こりの新人 木こりの新人
まきのうたてのの川 まきのうたてのの川
うたのうたの秋 うたの秋
木伐して出 木伐して出

浮舟

一 まさつ わ物 ま
細 ゆきとまれる

とのしのはかりうる松 今年二新
葉地のなをつるわ物 葉地のなをつるわ物
しらなみ年月のうつり行 しらなみ年月のうつり行
かれはてゝ 枯れはてゝ
手舞 手舞
一 ふるひ爰さハ 一 ふるひ爰さハ
同出 暮之後 同出 暮之後
不都 不都
ふるる夜 ふるる夜
夜の夜 夜の夜
一 ひのよをあ 一 ひのよをあ
ひとをあ ひとをあ
数のそ 数のそ

一世よりもとまりふるの所を紀ノ国の名を紀ノ国
○今集拾遺別 今集拾遺 後拾遺別 仲平歌
いとたかうの神の世にふる
いはしろの松の根ノ方の旅の
浦なる程に神よりの紀ノ国
○八雲集 雅経歌 紀ノ国の
山路の山ノ山ノ世にふる神を
かくやうの浦なる法ノ山ノ
源雅通朝臣 ちはやぶる
神やいかなる浦なるらん
対ノ宮ノ山ノ西浦
ちはやぶる神の
○今集遊宴 ちはやぶる
神の世にふる
○今集雜一 ちはやぶる
神の世にふる
○八雲集 雅経歌 ちはやぶる
神の世にふる

一汀の氷をかきのけて高の
○今集 ちはやぶる
神の世にふる
一
一つ
一
一
一
○八雲集 雅経歌 ちはやぶる
朝ノ宮ノ山ノ
ちはやぶる

さ作也といへとあるハ縦けれが御そもしる長也
女房ハ顔の移りる涙をしたへるハ高きをと聞えり
一 かくらし情や名字はある雲まして世をふるかなや
細あり雲ハ雨雲ニ成て曇候をも聞之〇ア果雨雲てとも
天雲ても疎ひと句倫てそれは前ハ上の付よも可ある
て月出るてつ花とひ色を等大将の前も月しやせて文
をとるしてもるきて世とかるをもこて其雨雲と疎るゝ之
一 まし雲てしかのハうるを花 白雲けかれた雲外よ浦
星てもいろふくおくかハる到他人のて果けり高何季
ひも色行きると汗ふ御りまて春ニ旅子てよ行人の涼るゝ
又死して煙しのかむけのそをて送るゝ 河海さいれる
家ハ新勅撰云完まる

一 ふく月ゆすさ入りるもあるも 白雲けハ今と付山すくなるも
君ひらうすしたてし見やく〇かく果花雲てよあくゝ心ゆき下ら
一 いさよけ勝り花ましくして之月やあると見呼とかめ
さしをく〇ハく果いそ夜の紀くるとまてかし
りよ来てかく月のなみてとまるかなるをいのさと作らぬく
一 係るやきと人りまきと紀人かのもこて花る呼 花
るもまいの字を歌かせしれけるまいり
一 星ひろやもたかもよ〇ハく果 定家卿
さしひらかや大は聲とこれぬしれか付くり奥の あそこのをと
一 あつまりしてかの〇今案和名鈔云唐韻云韓章音隆 鞄
和名 両介利 韓飾也西京雑記云玫瑰韓以緑地錦為之 蔽泥十 今案 一郎障
泥 後猶以熊熊皮為之
世

さとゐせまいりつくとも
一 やまとハ親の歩りし娘
かくらし情なれ家あ
細あく雲ハ雨まこさそ
天雲の使ひと句論
て日比のけつつれとひ
一 またきしるえて世
一 まつ星あそしゆのやう
星あいしきふく
ひる也行うき
又死して煙のむか
家ハ新勅撰よりよ

一 ふく月ひさよるあ
君ひらかして
一 いさよひ影り花さし
さよ〇ハ果
りふ夜目のさ
一 待さぬる人
うらいのなきを歌
一 星ひろ大も
きひお大声
一 あつましつ物〇今
和名 西利 尊飾也西京雑記云
泥 世 後稍以熊羆皮為

一　[illegible]

一　[illegible]

[illegible]

一　[illegible]

[illegible]

一　[illegible]

[illegible]

一　[illegible]

[illegible]

[illegible]

靖玲

一 [illegible]

○今年雲雷山童子に病を[illegible]

[illegible]

一 [illegible]

一 [illegible]

一 [illegible]

一 [illegible]

一 [illegible]

[illegible]

一 [illegible]

[illegible]

一 [illegible]

[illegible]

一 [illegible]

[illegible]

一 [illegible]

[illegible]

[illegible]

一 [illegible]

[illegible]

一 [illegible]

[illegible]

一 [illegible]

[illegible]

一 [illegible]

[illegible]

[illegible]

一 [illegible]

一 [illegible]

一 [illegible]

一 [illegible]

一 [illegible]

一 [illegible]

一 [illegible]

一 [illegible]

一 [illegible]

一 あかんハ敖なるて來生作に隠かれハ何にもいたさぬ
蛙はなく人ぬかるゝやさけのや細しきみのなる八をとめく
盃ともにとりて枕とゝにて○万葉集萬葉律よ
の亦のさいちゝれ重神ゝらゝハをとなり
よりありなる何梅なりしよふやかたさんをにて
一 路よかくかのてゝも廿年のねりとかくゝ○万葉集ゝの
まとハやさても宋にてもけてとふ中よ姫乃二さぞかゝや
一 世にも好るるゝしれて人よむらかし○万葉集古和よ
いもの好るるらるゝ紹も松の苗をまでもどらし
一 彼の父を方に○万葉こかりれ付きいくゝ子ゝ多
子の花やても上のれひ出れてしくよき佐仏すてれて
一 かれとのをゝとも作く是へ

一 身を重けしく川にきき瀬を長くゝみけてかれをひ
○万葉集五家集よ　○万葉河
去りゝみりけてやらし神をかるとして　うき二
出川の川よりみなしの雨そ出かりけものゝ時所生
一 うきわきらしむてしかすてとこ　○万葉
一 あはれしくるまでとゝ山紬ぬ是れよ
一 志すものとを手すなさやらけものいとゝれ○万葉集にれ
のこハ蓮のこと　和名鈔十七草類云蓮子雅荷
芙蕖其實蓮 音蓮 波和須乃美 蓮子 和名
一 小鷹狩りのつゐそ　河小鷹狩（ハツトカリ）百子 歌点 ○万葉集河津
はかりも万葉集九の巻よハ始鷹狩ところとく小鷹の
鴨とハかりきて從神鷹狩をかりこの細ゝ守

一 [illegible]
○ 集 [illegible]

一 [illegible]

一 [illegible]
秋の[illegible]
一 [illegible]
歌二首 同 [illegible]
[illegible] 碁師の碁聖と [illegible]
一 [illegible] ○ 今案淮南子云若行無案不
為無人不安 六帖第三橋の [illegible]

[illegible]
一 [illegible]
[illegible] 集
一 [illegible]
[illegible] 代紀に神性と [illegible]
[illegible] 人の [illegible]
[illegible] 恩 日本紀
と [illegible] 別 [illegible] 不祥 日本紀 不良 同上 又休祥 同上
[illegible]
[illegible] 恩 [illegible]

美濃橋

[illegible]
[illegible] 美濃橋 [illegible]

一 こと浣仔かハおてとつ〇かく家筆毎也かさく
こゝちの[illegible]家の某塚より[illegible]とも少なし
此[illegible]後の御[illegible]の[illegible]なり[illegible]ししと[illegible]の[illegible]
[illegible]も[illegible]なり

一 [illegible]人[illegible]生王家[illegible]倫[illegible]王の[illegible]
〇[illegible]星[illegible]橘紀の巻[illegible]
[illegible]王家[illegible]流[illegible]

[illegible]流といふなり

一 [illegible]ハいふ[illegible]のよ[illegible]
〇[illegible]山[illegible]
[illegible]外の紀[illegible]
[illegible]類[illegible]

山の名ハしけきこ山て[illegible]高き[illegible]
葉しけき[illegible]

古事記中云本牟智和気御子到於出雲拝訖大神還
上之時肥河之中作黒樔橋仕奉假宮而坐爾出雲國
造之祖名岐比佐都美飾青葉山而立其河下将獻大
御食之時其御子詔言是於河下如青葉山者見山
非山若坐出雲之石𥑎之曽宮葦原色許男大神以
伊都玖之祝大廷乎問賜也これハ假山の[illegible]

八十三 存中王

妹天[illegible]水[illegible]
これ[illegible]葉の[illegible]のつくる[illegible]
ねともせけられ 韓衣裁田貞士鏡見名淵[illegible]

[illegible]

一 [illegible]

[illegible]

一 [illegible]

[illegible]

秋夜賦 [illegible]

[illegible]

一 [illegible]

[illegible]

一 [illegible]

[illegible]

[illegible]

右源注拾遺七卷一覽[illegible]月抄之次率尒註愚意
以備他日校考者也 後拾文意一卷共八卷全

元禄九丙子 七月十九日

密乘沙門契沖

同十一年正月廿日一校畢

右頭注拾遺ハ前京兆家傳并書写ス 不字
あまりの写しとも説々にもとゝる事を載にも其
説ありて八公如旧草を得て説々文字書の字ハ
廣通し諸本ありて其ちうは書文字まさに
よろしく是中ある頗字勝他に諸本に多く
最ある本もて見てよく見ハ是中に入て後に合せて
文体もん書ぬ後よの

明和四年丁亥二月六日　右全部巻書写畢

守壽（花押）